

TEI と RDF を用いたアラビア文字伝記資料のデータ化の試み
—イブラーヒーム・クーラーニーの伝記を例に—

An Attempt to Digitize Arabic Letter Biographical Materials Using TEI and RDF:
Based on a Biography of Ibrāhīm al-Kūrānī

石 田 友 梨
ISHIDA, Yuri

TEIとRDFを用いたアラビア文字伝記資料のデータ化の試み ーイブラーヒーム・クーラーニーの伝記を例にー

石 田 友 梨

1. はじめに

本稿は、アラビア語やペルシア語で書かれたアラビア文字の伝記資料に特有の問題点を整理し、データベース作成に向けて解決策を検討するものである。アラビア文字伝記資料の例として、イブラーヒーム・クーラーニーIbrāhīm al-Kūrānī（1616年～1690年、以下クーラーニー）についての伝記を取り上げる。実際に記述されている内容を例に、人文学資料テキストのデータ化世界標準であるText Encoding Initiative（TEI）と、あらゆるデータをグラフ化するための記述方法Resource Description Framework（RDF）で機械可読形式のデータ化を試みたい。

第2節でクーラーニーのイスラーム思想史上の重要性を示し、第3節でクーラーニーについての伝記資料を概観する。第4節ではクーラーニーの伝記資料のひとつであるムラーディー『真珠の糸』（後述）のクーラーニーの項を訳出する。この訳に基づき、第5節では人名、第6節では書名をめぐる問題を指摘する。指摘した問題点をふまえつつ、第7節ではTEI、第8節でRDFによるデータ化を行う。最後の第9節で現状のまとめと、今後の展望について述べたい。

2. イスラーム改革思想におけるクーラーニーの位置づけ

イスラーム教が誕生したのは、アラビア半島西部ヒジャーズ地方の町マッカであった。天使からアッラーの言葉を伝えられた預言者ムハンマド（570年頃～632年）は、610年頃から故郷マッカでイスラームの教えを広げようとした。しかし、迫害を受けたことにより、622年にマッカの北方に位置する町ヤスリブへ移住する。「使徒の町」もしくは「預言者の町」を略し、アラビア語で「町」を意味するマディーナと改名されたヤスリブにおいて、預言者ムハンマドはイスラーム教に基づく統治を実現し、630年にはマッカを軍事的に征服した。イスラーム教徒が一生に一度は行うべき巡礼の目的地はマッカであるが、巡礼の際にはマディーナも訪れることが一般的である。マッカとマディーナはイスラーム教の二大聖地として、「両聖都al-Haramayn」と呼ばれるようになる。両聖都は宗教的な中心であり続けたものの、政治の中心はイラク南部に建設された軍営都市であるバスラやクーファ、アッバース朝の首都バグダードへと移っていった。学問の盛んな都市からは多くの学者が輩出されたと考え、伝記資料から学者たちの出身地の統計をとると、学者たちの出身地はこれらの都市からイランやイベリア半島の諸都市にも広がり、アッバース朝の滅びる13世紀にはダマ

スカスやアレクサンドリアなどの地中海沿岸諸都市へと変遷していく¹。両聖都が学問の中心地となるのは、17世紀のことである。その要因として、以下の4点が挙げられている。

- 1) ヨーロッパ諸国がインド洋に進出したことで航路の安全が図られ、インドや東南アジアからの巡礼者が増えた。
- 2) イランを統治していたサファヴィー朝がシーア派となり、スンナ派の学者の移住先のひとつがヒジャーズ地方であった。
- 3) インドを統治していたムガル朝が、両聖都に多額の寄付をしていた。
- 4) ヒジャーズ地方を統治していたオスマン朝が巡礼路の安全を図り、両聖都の教育施設などに資金を提供していた²。

学問のための環境が整えられた両聖都には、北アフリカから東南アジアに広がるイスラーム教徒の居住地域から学者が集まった。そして、イスラーム改革思想が形成されていく。イスラーム改革思想が目指すものは、イスラーム教の聖典クルアーンと、預言者ムハンマドの言行録ハディースに基づく法が支配する社会である。ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハブ Muḥammad b. ‘Abd al-Wahhāb (1703年～1791年) は、サウジアラビア王国の建国という形でイスラーム改革思想を実現した。

このように社会を動かす力をもつに至ったイスラーム改革思想は、両聖都に師を求めて学び、再び故郷に帰っていく学者たちのネットワークによって広まったとされる。両聖都の学問の両輪がハディース学と神秘主義であったことに着目したのは、ジョン・ヴォル John Voll である³。しかし、イスラーム改革思想を具現化したムハンマド・イブン・アブドゥルワッハブは、神秘主義を否定したことで知られている。彼の学問的師弟関係からだけでは、イスラーム改革思想が既存の学問を批判するようになった経緯が詳らかにならなかった。続いて、アジュマルディ・アズラ Azyumardi Azra は、東南アジア出身の学者たちへの偏りがあるものの、伝記資料を駆使してイス

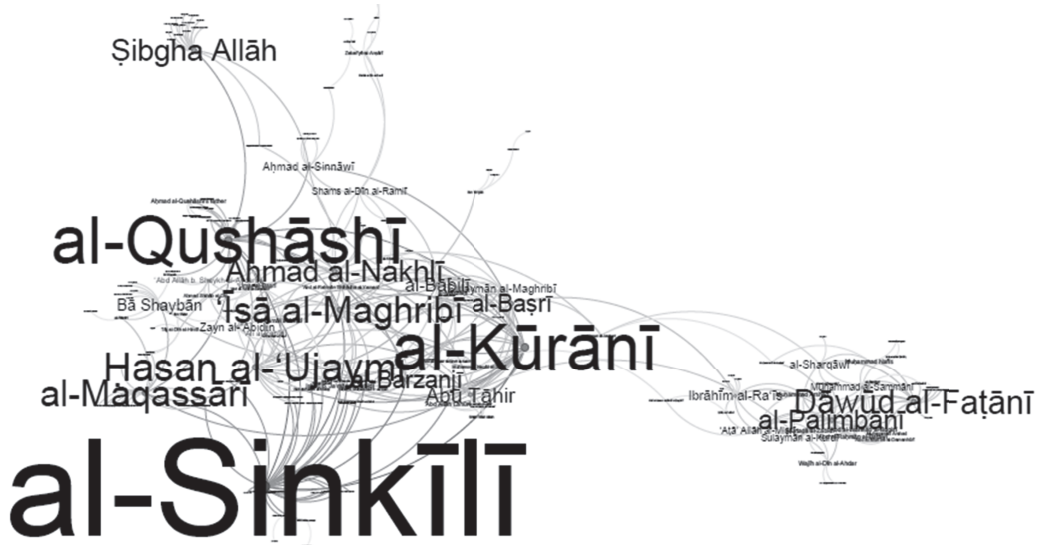
¹ M. G. Romanov, “Computational Reading of Arabic Biographical Collections with Special Reference to Preaching in the Sunnī World (661–1300 CE)” (PhD thesis, University of Michigan, 2013), <https://hdl.handle.net/2027.42/102300>; “Islamic Urban Centers (661–1300 CE),” Maxim Romanov, last modified August 23, 2014, <https://maximromanov.github.io/2014/08-23.html>.

² Naser Dumairieh, *Intellectual Life in the Hijāz before Wahhabism: Ibrāhīm al-Kūrānī’s (d. 1101/1690) Theology of Sufism* (Leiden; Boston; Brill, 2022), 18–42.

³ John Voll, “Muḥammad Ḥayyā al-Sindī and Muḥammad ibn ‘Abd al-Wahhāb: An Analysis of an Intellectual Group in Eighteenth-Century Madīna,” *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 38, no. 1 (1975): 32–39; J. O. Voll, “Hadith Scholars and Tariqahs: An Ulama Group in the 18th Century Haramayn and their Impact in the Islamic World,” *Journal of Asian and African Studies* 15, no. 3–4 (1980): 264–273.

ラーム改革思想形成期における師弟関係の全体像を描いた⁴。両聖都と各地を結ぶ師弟関係のネットワークの中心的人物のひとりであったのが、クーラーニーである。試みに、アズラの研究書から得られる情報に基づき、師弟関係をもつ学者同士を線edgeで結び、師弟関係のつながりを多くもつ人物ほど名前を大きく表示したものが図1である⁵。

図1：イスラーム改革思想をめぐる師弟関係ネットワーク



（筆者作成）

クーラーニーと、彼の師匠であり友人でもあったクシャーシーal-Qushāshī（後述）の存在感が可視化されている。なお、この2人よりも大きく左下に表示されているシンキーリー〔‘Abd al-Ra’ūf〕al-Sinkīlī（1615年～1693年）は、アズラが関心をもっていた東南アジア出身者のひとりである。彼の師弟関係は情報量が多く、ネットワーク上での表示が大きくなっている。その他の学者についても、実際に果たした役割の大きさに表示の大きさが見合うかについては、慎重に検証していくべきである。過去の人物の評価においては、今日まで残っている資料の多寡、研究の蓄積の有無といった要因の影響を受けざるをえない。

⁴ Azyumardi Azra, *The Origins of Islamic Reformism in Southeast Asia: Networks of Malay-Indonesian and Middle Eastern ‘Ulamā’ in the Seventeenth and Eighteenth Centuries* (Crowns Nest NSW: Allen & Unwin; Honolulu: University of Hawai‘i Press, 2004).

⁵ 紙面の都合上、ネットワークの全体像ではなく、中心部を切り取って掲載している。

3. クーラーニーについての伝記資料

クーラーニーの生涯については、彼の自著である『決意の覚醒のための共同体 *al-Amam li iqāz al-himam*』などに加え、直弟子であったウジャイミー Ḥasan b. ‘Alī al-‘Ujaymī (1702年没) の『礼拝所に隠されているもの *Khabāyā al-zawāyā*』、シュッリー Muḥammad b. Abū Bakr b. Aḥmad al-Shullī Bā-‘Alawī (1682年没) の『〔ヒジュラ暦〕11世紀の伝聞における宝石と真珠の結び目 *‘Aqd al-jawāhir wa al-durar fī akhbār al-qarn al-ḥādī ‘ashar*』、ハマウイー Muṣṭafā al-Ḥamawī (1711年没) の『〔ヒジュラ暦〕11世紀の伝聞における出立の益と旅の効果 *Fawā'id al-irtiḥāl wa natā'ij al-safar fī akhbār al-qarn al-ḥādī ‘ashar*』(以下『出立の益』)、アイヤーシー Abū Sālim ‘Abd Allāh b. Muḥammad al-‘Ayyāshī (1628年～1679年) の『卓の水 *Mā’ al-mawā'id*』(『アイヤーシーの旅 *al-Riḥla al-‘ayyāshīya*』) において述べられているほか、シャウカーニー Muḥammad b. ‘Alī al-Shawkānī (1760年頃～1839年) の『〔ヒジュラ暦〕7世紀以降の人の美德とともに昇る満月 *al-Badr al-ṭālī’ bi maḥāsin man ba’d al-qarn al-sābi’*』、ムラーディー Muḥammad Khalīl b. ‘Alī al-Murādī (1759/60年～1791年) の『〔ヒジュラ暦〕12世紀の偉人たちにおける真珠の糸 *Silk al-durar fī a’yān al-qarn al-thānī ‘ashar*』(以下『真珠の糸』)、ジャバルティー ‘Abd al-Raḥmān b. Ḥasan al-Jabartī (1753年～1825年) の『伝記と伝聞における事跡の驚異 *‘Ajā'ib al-āthār fī al-tarājim wa al-akhbār*』、バグダーディー Ismā'il Bāshā al-Baghdādī (1839年～1920年) の『導師たちの導き *Hadīya al-‘arīfīn*』、フダイキー Muḥammad b. Aḥmad al-Ḥudaykī (1706年～1775年) の『フダイキーの年代記 *Ṭabaqāt al-Ḥudaykī*』、カーディリー Muḥammad b. al-Ṭayyib al-Qādirī (1712年～1773年) の『〔ヒジュラ暦〕11世紀と12世紀の者たちについての繰り返しの告知 *Nashr al-mathānī li ahl al-qarn al-ḥādī ‘ashar wa al-thānī*』に記載がある⁶。しかし、クーラーニーへの言及のある伝記は、ここに挙げたものがすべてではない。たとえば、クーラーニーの息子アブ・ターヒル Abū Ṭāhir Muḥammad b. Ibrāhīm al-Kūrānī (1670年～1732/3年) に師事したシャー・ワリーウッラー Shāh Walī Allāh al-Dihlawī (1703年～1762年) の『導師たちの息吹 *Anfās al-‘arīfīn*』においても、クーラーニーについての伝記が収録されている。これについては第5節で取り上げたい。

さて、クーラーニーは、1616年にクルド地方の町シャフラーンで生まれた⁷。故郷で学問を修めた後、巡礼のために訪れた両聖都において学者として大成する。育てた弟子の多さに加え、東南アジアの弟子たちとの書簡を通じたつながりでも知られている。次節では、ヒジュラ暦12世紀(西暦1689年～1785年)に没した学者たちの伝記であるムラーディー『真珠の糸』から「イブラーヒーム・クーラーニー」の項を全訳することで、クーラーニーの生涯を概観したい。

⁶ Dumairieh, *Intellectual Life*, 97-98.

⁷ Dumairieh, *Intellectual Life*, 99; *ET*², s.v. “al-Kūrānī.”

4. ムラーディー『真珠の糸』における「イブラーヒーム・クーラーニー」

イブラーヒーム・クーラーニー

マディーナの客人、長、導師、博識な学者、求道者の末、王座の長、至高なるアッラーを知る賢者、ナクシュバンディー教団の神秘主義者による数多の著作の所有者、痕跡を精査する探究者、系図の王座、神秘主義者、信仰の証しである（イブラーヒーム・）イブン・ハサン・クーラーニー・シャフラズリー・シャフラーニー・シャーフィイー (Ibrāhīm) b. Ḥasan al-Kūrānī al-Shahrazūrī al-Shahrānī al-Shāfīは、〔ヒジュラ暦〕1025年シャウワール月⁸に生まれた。ひとりで知識を探究し、光輝なるマディーナへ発ち、そこに居を構えた。親しき友アフマド・イブン・ムハンマド・クシャーシーAḥmad b. Muḥammad al-Qushāshī、賢者アブー・マワーヒブ・アフマド・イブン・アリー・シンナーウィーAbū al-Mawāhib Aḥmad b. ‘Alī al-Shinnāwī、説教師ムハンマド・シャリーフ・イブン・ユースフ・クーラーニーMuḥammad Sharīf b. Yūsuf al-Kūrānī、巨匠アブドゥルカリーム・イブン・アブー・バクル・フサイニー・クーラーニー‘Abd al-Karīm b. Abū Bakr al-Ḥusaynī al-Kūrānīなど、学者の指導者たちから学んだ。ダマスカスにおいては星の保持者ムハンマド・イブン・ムハンマド・アーミリー・ガズビーMuḥammad b. Muḥammad al-‘Āmirī al-Ghazzīに、エジプトにおいてはアブー・アザーイム・スルターン・イブン・アフマド・マッザーヒーAbū al-‘Azā‘im Sulṭān b. Aḥmad al-Mazzāhīやムハンマド・イブン・アラウッディーン・バービリーMuḥammad b. ‘Alā’ al-Dīn al-Bābilīや敬虔者アブドゥルバーキー・ハンバリ‘Abd al-Bāqī al-Ḥanbalīなどに学んだ。彼の評判は広がり、地位は高まり、彼に学ぶために遠い国々から学生たちが彼の許へ急いだ。預言者モスクで教え、数々の有益な本を書いた。それらの本のなかには、活用についての『定義の完成Takmil al-ta’rīf』、『カイサリー[‘Abd al-Muḥsin al-Qayṣarī (1467/8年没)]の『アンダルスィーの解説』への注釈Hāshiya Sharḥ al-Andalusīya al-Qayṣarī』、『ジュルジャーニー[‘Abd al-Qāhir al-Jurjānī (1078年頃没)]の『要因』の解釈Sharḥ al-‘Awāmil al-Jurjānīya』、〔カースィム al-Qāsim (1619年没)の〕『『基礎』についての現実の混乱の開示のための灯火Al-Nibrās li kashf al-iltibās al-wāqī’ fī al-Asās』、『第一の義務の問題と模倣の問題についての尊い答えJawāb al-‘atīd li mas’ala awwal wājib wa mas’ala al-taqlīd』、『『魂の喜び』の解説についての光の輝きDiyā’ al-miṣbāḥ fī Sharḥ Bahja al-arwāḥ』、『『アッラーが受けいれてくださるように』という言葉と「至高なるアッラーが受けいれてくださるように」の握手についての質問の答えJawāb su’ālāt ‘an qawl “taqabbal Allāh” wa al-muṣāfaha “taqabbal Allāh ta’ālā”』、『重要な問題についての終結Al-Mutimma li al-Mas’ala al-muhimma』、その『付記Dhayl (al-Mutimma)』、『ザイドウッディーン・イブン・アリー師の言葉の実現における明白な言葉Al-Qawl al-jalī fī taḥqīq qawl al-Imām Zayd al-Dīn b. ‘Alī』、『神学者と神秘主義者の議論の和解の実現

⁸ 西暦1616年10月～11月。

Tahqīq al-tawfīq bayn kalāmay ahl al-kalām wa ahl al-ṭarīq』、『代理者の真理の唯一性への道の方向 *Qaṣd al-sabīl ilā tawḥīd al-Ḥaqq al-Wakīl*』、『『真正な信条と名付けられた信条』の解釈 *Sharḥ al-ʿAqīda al-musammā al-Ṣaḥīḥa al-ʿaqīda*』、『予期された質問についての見事な答え *Al-Jawāb al-mashkūr ʿan al-suʿāl al-manẓūr*』、『5つの単語のアラビア語化とともにある太陽の光輝 *Ishrāq al-shams bi taʾrīb al-kalimāt al-khams*』、『至高にして至大なる者の唯一性への旅の充足 *Bulgha al-masīr ilā tawḥīd al-ʿAlī al-Kabīr*』、『「アッラーのほかに神はなし」の発声の注意がもつ急務 *ʿUjāla dhawī al-intibāh taḥqīq iʾrāb lā ilāh illā Allāh*』、『よく知られたジャワ人の質問についての粘りある答え *Jawābāt al-gharrāwīya ʿan al-masāʾil al-Jāwīya al-juhrīya*』、『ムハンマド・イブン・ムハンマド・カルイーが書いた質問についての急務 *Al-ʿUjāla fī mā kataba Muḥammad b. Muḥammad al-Qalī suʿālā*』、『創造の質問における澄んだ言葉 *Al-Qawl al-mubīn fī masʾala al-takwīn*』、『「アッラーのほかに神はなし」の発声への用心の覚醒 *Inbāh al-anbāh ʿalā taḥqīq iʾrāb lā ilāh illā Allāh*』、『神学の質問の実現とともにある知の詳細 *Ifāda al-ʿallām bi taḥqīq masʾala al-kalām*』、『過剰と怠慢の間の獲得の実現を囲む微光 *Al-Ilmāʾ al-muḥīt bi taḥqīq al-kasb al-wasat bayn ṭarafay al-ifrāt wa al-tafrīt*』、『預言者への捧物の解説への純粹なる贈物 *Ithāf al-zakī⁹ bi sharḥ al-tuḥfa al-mursala ilā al-Nabī*』、『選ばれた預言者のハディースへの敬虔な道 *Masālik al-abrār ilā aḥādīth al-Nabī al-mukhtār*』、『崇拜行為の創造の質問への精算の道筋 *Maslak al-sadād ilā masʾala khalq afāl al-ʿibād*』、『聖者の酔言の判断についての明白な道筋 *Al-Maslak al-jalī fī ḥukm mashṭaḥ al-walī*』、『打楽器の判断についての返還の美 *Husn al-awba fī ḥukm ḍarb al-nawba*』、『先人の学派の実現への後人の贈物 *Ithāf al-khalaf bi taḥqīq madhhab al-salaf*』、そのほかに100を超える著作がある。知識 *ilm* の山々からなる山、神秘主義的思想 *ʿirfān* の海々からなる海だった。〔ヒジュラ暦〕1101年ラビーウ・サーニー月18日水曜日午後¹⁰ に光輝なるマディーナ郊外の家で亡くなり、バキーク墓地に埋められた。彼に至高なるアッラーの慈悲があらんことを¹¹。

5. 人名について

前節のムラーディーの伝記を例に、人名をめぐる課題について述べたい。ムラーディーの記述では、クーラーニーが真っ直ぐにマディーナに向かったかのように読める。しかし、ワリーウッラーの『息吹』によれば、クーラーニーが故郷を発ってからマディーナに到着するまでの経緯は、以下のとおりである。

⁹ 後述するように、「知的な、知性の持ち主 al-dhakī」の場合もある。Oman Fathurahman, “*Ithāf al-dhakī* by Ibrāhīm al-Kūrānī: A Commentary of *Waḥdat al-Wujūd* for Jāwī Audiences,” *Archipel* 81 (2011): 177, fn. 1.

¹⁰ 西暦1690年1月29日。

¹¹ Abū al-Faḍl Muḥammad Khalīl b. ʿAlī al-Murādī, *Silk al-durar fī aʿyān al-qarn al-thānī ʿashar* (Cairo: Dār al-Kutub al-Islāmī, n.d.), 5–6.

2年ほどバグダードに住み、我らが師アブドゥルカーディル—彼の魂 *sirr* が聖なるものとならんことを一の墓へ出向いた。この道の喜びがそこで見つかった。4年間シリア地方 *Shām* に留まり、エジプトを経由して両聖都へ到着した。クシャーシーと会い、彼はクシャーシーに、クシャーシーは彼に、驚くほど親密な友情を見出した。彼〔クシャーシー〕から〔伝えられた〕ハディースを語り、〔クシャーシーから与えられた〕賜衣 *khirqā* を着た¹²。

ここで言及されているアブドゥルカーディルとは、カーディリー教団の名祖アブドゥルカーディル・ジーラーニー‘*Abd al-Qādir al-Jīrānī* (1077/8年～1166年) のことであろう。神秘主義の修行者は教団に所属し、師匠に認められると賜衣を授けられる。クーラーニーは、バグダードでジーラーニーの墓を訪れ、神秘主義の道に目覚めた。その後、ダマスカスやカイロを経て両聖都に辿り着き、クシャーシー‘*Aḥmad al-Qushāshī* (1583年～1661年) からハディースや神秘主義を学んだことになる。

続いてムラーディーは、クーラーニーの師匠の名前を列挙している。シャー・ワリーウッラーによれば、クーラーニーはバグダード、ダマスカス、エジプト、両聖都の順に移動しているので、実際に教えを受けたおおよその順番は、ダマスカスにおいてガッズイー (1570年～1651年)、エジプトにおいてマッザーヒー (1577/8年～1665年)、バービリー (1591/2年～1666/7年)、ハンバリー (1596年～1661年)、両聖都において先述のクシャーシー、シンナーウィー (1567年～1619年)、ムハンマド・クーラーニー (1676年没)、アブドゥルカーリーム・クーラーニー (1640年没) となるだろう。しかし、1616年生まれのクーラーニーが、1619年に没したシンナーウィーに教えを受けたとなると、クーラーニーは3歳までに両聖都に到着していなければならなくなる。クーラーニーやシンナーウィーの生没年が間違っているか、シンナーウィーの教えは間接的なものであったと考えられる。ジーラーニーの墓所を訪れた時のように、すでに亡くなっていたシンナーウィーから学問的天啓を受けた可能性もある。墓前で人生の転機となる閃きを得たという逸話は、クーラーニーに限ったものではない。シャー・ワリーウッラーも自伝において、学問的思索に耽りながら父親の墓を訪れているうちに神秘主義に目覚め、ハディースに基づく法学という方法を思いつき、インドから両聖都へ巡礼に旅立つことを決めたと述べている¹³。対面での教えを受けていない師匠との関係をどう扱うかについては、アラビア文字伝記資料の課題のひとつである。

アラビア文字の伝記資料においては、同一人物でも呼称が統一されていないことが多く、人物の同定を困難にする。たとえば、『息吹』の引用にある「アブドゥルカーディル」がアブドゥルカーディル・ジーラーニーを指すと推察するのは、ハマウィー『出立の益』に明記されていること、ジーラー

¹² *Shāh Walī Allāh al-Dihlawī, Anfās al-‘ārifīn* (Dehli: Maṭba‘ Aḥmadī, n.d.), 187.

¹³ *al-Dihlawī, Anfās al-‘ārifīn*, 195.

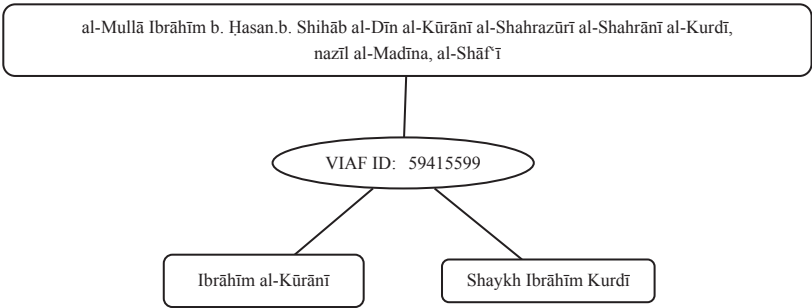
ニーの墓がバグダードにあること、クーラーニーの神秘主義に関する側面について焦点を当てた伝記であることなどからである。このような推論の過程は、一般的には記されない。先ほどの『息吹』の引用を例にすれば、「2年ほどバグダードに住み、我らが師アブドゥルカーディル¹⁴ —彼の魂 *sirr* が聖なるものとならんことを—の墓へ出向いた。」のように脚注が付されるだけであろう。しかし、このような推論の過程についても、人物同定が適切であったか検証可能な形でデータベース化することが、本研究の目指すところである。「クシャーシー」がアフマド・クシャーシーのことであると推測できるのも、ムラーディーの『真珠の糸』において「親しき友アフマド・イブン・ムハンマド・クシャーシー」と紹介されている師匠と名前の一部（クシャーシー）が一致するためである。そもその話として、ある程度の背景知識がなければ、『真珠の糸』において「イブラーヒーム・クーラーニー」で立項され、正式には「イブラーヒーム・イブン・ハサン・クーラーニー・シャフラズリー・シャフラニー・シャーフィイー」であるとされる人物と、『息吹』で「シャイフ・イブラーヒーム・クルディー *Shaykh Ibrāhīm Kurdī*」、ハマウィーの『出立の益』では「マディーナの客人でシャーフィイー法学派の師イブラーヒーム・イブン・ハサン・イブン・シハーブッディーン・クーラーニー・シャフラズリー・シャフラニー・クルディー *al-Mullā Ibrāhīm b. Ḥasan b. Shihāb al-Dīn al-Kūrānī al-Shahrazūrī al-Shahrānī al-Kurdī, nazīl al-Madīna, al-Shāfī*」¹⁵ と立項されている人物が同じであると同定することができない。

次に、人物を同定した後の問題について述べる。イスラーム研究における権威であり、現在ではオンライン事典としても提供されている『イスラーム百科事典 *Encyclopaedia of Islam*』（*EI*）の第2版（*EI*²）では「クーラーニー *al-Kūrānī*」、第3版では「イブラーヒーム・クーラーニー *al-Kūrānī, Ibrāhīm*」の見出し語がある。クーラーニーには、著者名の国際的典拠となるバーチャル国際典拠ファイル（VIAF）のID「59415599」や、共同編集データベースであるウィキデータ Wikidata の識別子「Q29514437」も与えられている。データベース作成の際、たとえば「VIAF ID: 59415599」を「イブラーヒーム・クーラーニー」や「シャイフ・イブラーヒーム・クルディー」と結んでおけば、同一人物の別名であることを示すことができる（図2）。

¹⁴ カーディリー教団の名祖アブドゥルカーディル・ジラーニー *‘Abd al-Qādir al-Jīrānī* (1077/8年～1166年) のこと。

¹⁵ *Al-‘Allāma Muṣṭafā b. Faṭḥ Allāh al-Ḥamawī, Fawā'id al-irtihāl wa natā'ij al-safar fī akhbār al-qarn al-ḥādī ‘ashar*, vol. 3, ed. ‘Abd Allāh Muḥammad al-Kandarī (Damascus; Beirut: Dār al-Nawādir, 2011), 54.

図2：人名とその別名の構造化



しかし、クーラーニーより知名度の劣る学者であった場合、これらの外部データとの結びつけは困難になる。クーラーニーの師匠として『真珠の糸』で挙げられていた8人の場合には、表1のような結果となった。

表1：クーラーニーの師匠と外部データとの対応

	人名	EI	VIAF	Wikidata
1	ガズイー		50597046	Q110445945
2	マッザーヒー		10168105994043322634/ 90042398 ¹⁶	Q105359251
3	バービリー		71179670	
4	ハンバリー			Q105294077
5	クシャーシー	al-Kuṣhashī	96966210	Q61118567
6	シンナーウィー		90083353	Q4670016
7	ムハンマド・クーラーニー			(Q19729462) ¹⁷
8	アブドゥルカリーム・クーラーニー		4878167202642767930004	

これらの人名を調べるにあたっても、アラビア文字をラテン文字に転写する方法を何通りか知っている必要がある。EIの初版と第2版ではアラビア文字の「ق」を「Q」ではなく「K」で転写することを知らなければ、見落としてしまうだろう。また、アラビア文字は漢字のように幾通りかの読み方が可能である。ルビに相当する発音記号のシャクル *shakl* がなければ、特に初めてみる地名を正しく読むことは難しい。「ガズイー-al-Ghazi」なのか「ガズイー-al-Ghazzi」なのかは、文字

¹⁶ 2023年11月の本稿執筆時点では、ラテン文字転写表記（10168105994043322634）とアラビア文字表記（90042398）の立項があり、統合されていない。

¹⁷ ヒジュラ暦1145年（西暦1732/3年）没の「アブー・ターヒル・ムハンマド・イブン・イブラーヒーム・イブン・ハサン・イブン・シハーブッディーン・クルディーAbu Taher Muhammad bin Ibrahim bin Hasan bin Syihabuddin al Kurdi」のことなので別人と思われる。

面を眺めているだけでは分からない。ラテン文字転写での検索は、言語の切り替えの手間を省くなどの利点はあるものの、時に複数の転写方法や読みを試さなければならないという欠点もある。

6. 書名について

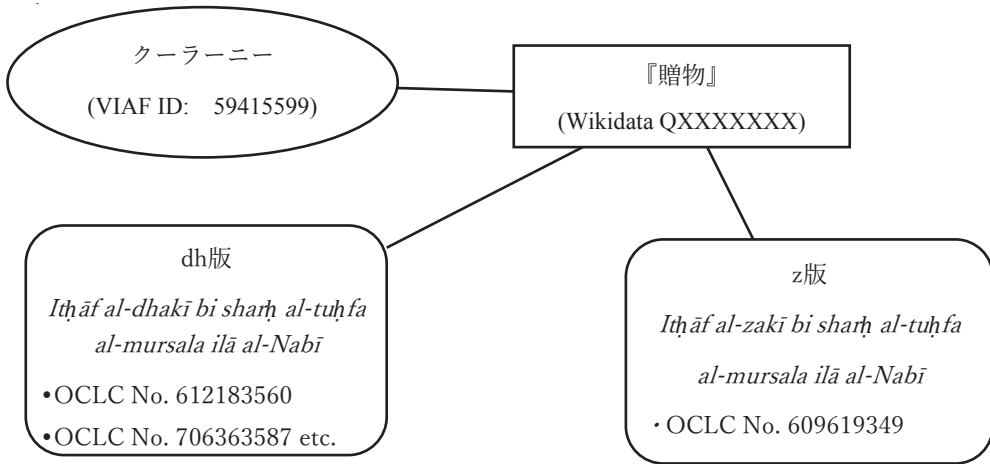
モレットティの『遠読』は、18世紀から19世紀にかけて英国小説の題名が短くなったことを計量的に実証した¹⁸。第4節においてムラーディーが列挙しているクーラーニーの著作の題名をみれば、18世紀以前のアラビア文字圏においても書名は長かったといえそうである。イスラーム思想研究の大家であった井筒俊彦は、「……昔のアラビア語の書物の表題は一種の飾り文句でありまして、直接に内容を示すものではないのです。一般に本の表題の意味などを考えて頭をしぼると損をします」と述べていた¹⁹が、書名を訳してしまうことでかえってどの作品のことを指しているのか分かりにくくなる場合もある。極端な例を挙げれば、原文のアラビア語を尊重するという意味もあるが、イスラーム教の聖典『クルアーン *al-Qur'ān*』を『誦まれるもの』とわざわざ訳さない。欧米諸語の研究書においても、重要な作品以外については書名をラテン文字転写するだけで、各国語訳までつけないことがある。

さて、人名と同様に、書名も別名や読み方の問題がある。外部データとの結びつきがさらに難しく、オンラインコンピューター図書館センターOnline Computer Library Center (OCLC) が提供している世界的な図書館書誌データベースである WorldCat においても、ムラーディーが挙げたクーラーニーの著作30作品中6作品の登録しかない。ここに登録があればOCLC番号、刊本であれば国際標準図書番号ISBNなどを外部データとして利用できる。たとえばWorldCatには、『預言者への捧物の解説への純粋なる贈物 *Ithāf al-zakī bi sharḥ al-tuḥfa al-mursala ilā al-Nabī*』に該当する写本『預言者への捧物の解説への知性の持ち主への贈物 *Ithāf al-dhakī bi sharḥ al-tuḥfa al-mursala ilā al-Nabī*』がいくつか登録されている。アラビア文字の「ز」を使った「純粋な *al-zakī*」(以下z版)か、「ذ」を使った「知性の *al-dhakī*」(以下dh版)かの違いがある。第5節でVIAFのIDを介在させ、人名の表記が複数ある場合に対応したのと同様に、クーラーニーの『贈物 *Ithāf*』という作品の概念 entity を導入し、dh版の書誌データ(OCLC No. 612183560や706363587)と、z版の書誌データを疎結合しておくべきであろう。ウィキデータに『贈物』(QXXXXXXX)の項目を作ったとして、人名と作品、作品とその別名を構造化したのが図3である。

¹⁸ フランコ・モレットティ著、秋草俊一郎ほか訳、「スタイル株式会社—七千タイトルの省察 (1740年から1850年の英国小説)」『遠読: <世界文学システム>への挑戦』(東京: みすず書房, 2016), 247-286.

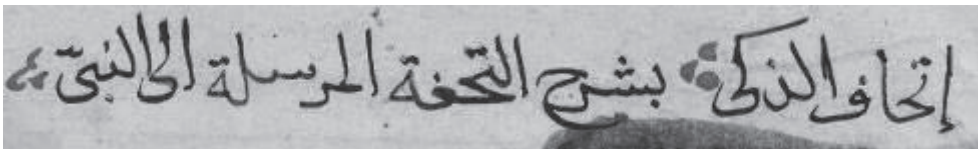
¹⁹ 井筒俊彦『イスラーム哲学の原像』(東京: 岩波書店, 1980), 37.

図3：人名、作品名、作品の別名の構造化



さらに、ハーバード大学がオンライン公開している写本（OCLC No. 1263680569や706363587）の題名部分を読んでみれば、dh版で記されていることが確認できる（図4）²⁰。一方、米国の大学図書館を中心に蔵書のオンライン公開を進めているハーティ信託電子図書館 HathiTrust Digital Library によってオンライン公開されているムラーディー『真珠の糸』（OCLC No. 609619349）を読んでみれば、クーラーニー『贈物』をz版で記していることが確認できる（図5）²¹。根拠となるこれらの画像をリンクさせれば、さらに書誌データの記述についての検証が行いやすくなるだろう。クーラーニーの写本で題名がdh版となっているならば、dh版の読み方を採用した方がよいだろうといった判断が可能になる。

図4：クーラーニー『贈物』の写本の題名部分の画像



²⁰ “Kūrānī, Ibrāhīm ibn Ḥasan, 1616 or 17-ca. 1690. Iṭḥāf al-zakī bi-sharḥ al-Tuḥfah al-mursalah ilā al-Nabī: manuscript, [ca.1670]. MS Arab 250. إتحاف الزكي بشرح التحفة المرسلة إلى النبي : مخطوطة. كوراني، إبراهيم بن حسن. Houghton Library, Harvard University, Cambridge, Mass.f. 1.,” Harvard University, n.d., <https://nrs.lib.harvard.edu/urn-3:fhcl.hough:2015649?n=6>.

²¹ “Kitāb Silk al-durar fī a’yān al-qarn al-thānī ‘ashar / ta’līf Abī al-Faḍl al-Sayyid Muḥammad Khalīl Afandī al-Murādī v.1,” HathiTrust, n.d., <https://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=inu.30000081615688&seq=10>.

図5：ムラーディー『真珠の糸』におけるクーラーニー『贈物』への言及部分の画像

واتحاف الزكى بشرح التحفة المرسلة الى النبي

以上、ムラーディー『真珠の糸』におけるクーラーニーの伝記を例に、アラビア文字資料のデータベース化を行う際の問題点を挙げてきた。続く7節では、以下に示すムラーディー『真珠の糸』の一部を抜粋したテキストを対象に、人文学資料のテキストをデジタル化するための国際標準であるTEIを用いてデータ化を行う。

(ابراهيم) بن حسن الكوراني الشهير زوري الشهراني الشافعي ولد في شوال سنة خمس وعشرين والف وطلب العلم بنفسه ورحل الى المدينة المنورة وتوطنها واخذ بها عن جماعة من صدور العلماء كالصفي احمد بن محمد القشاشي والعارف ابي المواهب احمد ابن علي الشناوي وملا محمد شريف بن يوسف الكوراني والاستاذ عبد الكريم بن ابي بكر الحسيني الكوراني واتحاف الزكى بشرح التحفة المرسلة الى النبي..... وغير ذلك من المؤلفات التي تنوف عن المائة

(イブラーヒーム・) イブン・ハサン・クーラーニー・シャフラーズーリー・シャフラーニー・シャーフィイーは、……〔ヒジュラ暦〕1025年シャウワール月に生まれた。ひとりで知識を探求し、光輝なるマディーナへ発ち、そこに居を構えた。親しき友アフマド・イブン・ムハンマド・クシャーシー、賢者アブー・ムワーヒブ・アフマド・イブン・アリー・シンナーウィー、説教師ムハンマド・シャリーフ・イブン・ユースフ・クーラーニー、巨匠アブドゥルカリーム・イブン・アブー・バクル・フサイニー・クーラーニーなど、学者の指導者たちから学んだ。……『預言者への捧物の解説への純粹なる贈物』、……そのほかに100を超える著作がある。

7. TEIによるクーラーニーの伝記のテキストデータ化

TEIの記述に一般的に用いられているXMLファイル編集ソフトOxygenの基本的な使い方については入門書²²に譲り、本稿ではテンプレートファイル「All [TEI]」を開いた図6の状態から説明を始めたい。

²² James Cummings 原作, 永崎研宣翻案, 「実践演習: 漱石書簡を用いたTEIによるテキスト構造化入門」『人文学のためのテキストデータ構築入門: TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて』一般財団法人人文情報学研究所監修, 石田友梨ほか編著 (東京: 文学通信, 2022), 138-179などを参照のこと。

図6：Oxygen のAll [TEI]テンプレート表示

```

1 <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
2 <?xml-model href="http://www.tei-c.org/release/xml/tei/custom/schema/relaxng/tei_all.rng" type="application/xml" schematypens="http://relaxng.org/ns/structure/1.0"?>
3 <?xml-model href="http://www.tei-c.org/release/xml/tei/custom/schema/relaxng/tei_all.rng" type="application/xml"
4   schematypens="http://purl.oclc.org/dsdl/schematron"?>
5 <TEI xmlns="http://www.tei-c.org/ns/1.0">
6   <teiHeader>
7     <fileDesc>
8       <titleStm>
9         <title>Title</title>
10      </titleStm>
11      <publicationStm>
12        <p>Publication Information</p>
13      </publicationStm>
14      <sourceDesc>
15        <p>Information about the source</p>
16      </sourceDesc>
17    </fileDesc>
18  </teiHeader>
19  <text>
20    <body>
21      <p>Some text here.</p>
22    </body>
23  </text>
24 </TEI>

```

21行目「<p>Some text here.</p>」の段落 paragraph を示す要素 p タグ <p></p> の間、「Some text here.」の部分にマークアップの対象となるテキストを入力する。しかし、原文のアラビア語のテキストの冒頭の「(イブラーヒーム)」の次に、文末の「……そのほかに100を超える著作がある」が表示されてしまう。

図7：アラビア語テキストの入力

```

18 <text>
19   <body>
20     <p>( ابراهيم ) غير ذلك من المؤلفات التي تنوف عن المائة .....
21   </body>
22 </text>

```

そこで、「編集>テキストの方向を変更する」(Ctrl+Shift+O)によって、テキストの方向を右から左向きに設定する(図8)。

図8：左から右向きテキスト表示

```

18 <text>
19   <body>
20     <p>( ابراهيم ) بن حسن الكوراني الشهرزوري الشهراني الشافعي ..... ولد في شوال
21   </body>
22 </text>

```

まずはクーラーニーの名前に人名要素タグ <persName> を付ける。「(イブラーヒーム・)イブン・ハサン・クーラーニー・シャフラズーリー・シャフラニー・シャーフィイー」に当たる「(ابراهيم) بن حسن الكوراني الشهرزوري الشهراني الشافعي」を反転表示し、Ctrl+Eでタグ選択

画面を出してpersNameを指定する。すると、図9のようにクーラーニーの名前の部分が人名タグで囲われ、機械にもアラビア語を読めない者にも、この部分が人名であることを示すことができるようになる。20行目右端の「<p><persName>」は「<persName><p>」となるべきであろうが、右から左向き表示の仕様なので修正できない。

図9：<persName> タグの付与

```

18 |
19 |                                     <text>
20 | ..... <persName/> الشافعى الكورانى الشهزورى الشافعى <p><persName>
21 |
22 |                                     <body/>
                                     <text/>

```

次に、クーラーニーの名前を VIAF ID と関連付ける。VIAF ID: 59415599のパーマリンク「<http://viaf.org/viaf/59415599>」を外部URIとして利用して、参照属性@refを人名要素に追加する。テキストの向きを左から右に戻し、「<persName ref="http://viaf.org/viaf/59415599">」と入力する。

図10：<persName> タグの属性へVIAFのURI追加

```

18 | <text>
19 | <body>
20 | <p><persName ref="https://viaf.org/viaf/59415599/"> ( ابراهيم ) الشافعى الكورانى الشهزورى الشافعى </persName> ....
21 | </body>
22 | </text>

```

今回はテキストの冒頭に括弧（ ）があったため、テキストの順番が入れ替わってしまった。このような場合の対処方法を含めて説明したが、慣れれば左から右向きテキスト表示のまま作業することができる。通常のタグと異なる表示になっていても、エラーがでていなければそのままにしておけばよい。

続いて、クーラーニーの著書『贈物』を書誌データ「<http://www.worldcat.org/oclc/1263680569>」(OCLC No. 1263680569) と関連付ける。書名に当たる「اتحاف الزكى بشرح التحفة المرسلة الى النبى」を反転表示させ、書誌的引用bibliographic citation要素<bibl></bibl>タグで囲み、さらに書名title要素<title></title>で囲む。<title>に参照属性@refを追加し、書誌データ「<http://www.worldcat.org/oclc/1263680569>」を入力する。対象部分がみえやすいように適宜改行し、左から右向きテキスト表示にしたものが図11、右から左向きテキスト表示にしたものが図12である。

図11：<bibl>要素部分の左から右向きテキスト表示

```

22 |
23 | <bibl><title ref="http://www.worldcat.org/oclc/1263680569"> اتحاف الزكى بشرح التحفة المرسلة الى النبى </title></bibl> .....

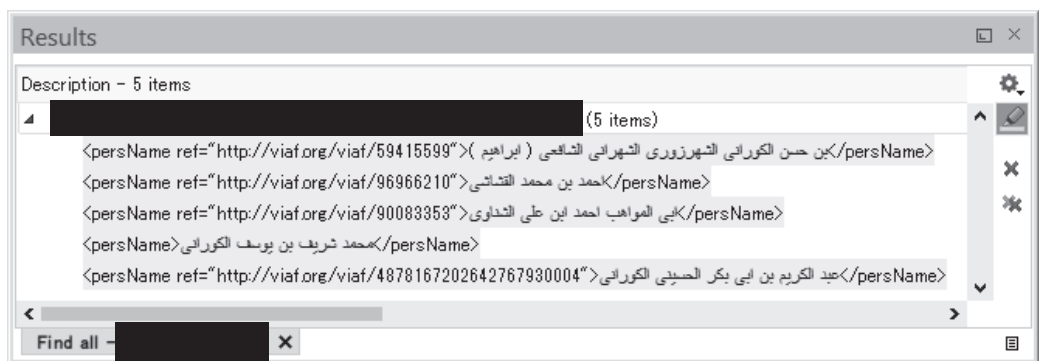
```

図12: <bibl>要素部分の右から左向きテキスト表示

22 كالمنى احمد بن محمد القشاشى والعارف ابى المواهب احمد ابن على الشناوى وملا محمد شريف بن يوسف الكورانى والاستاذ عبد ال
 23 <title></bibl/>التحاف الزكى بفرج التحفة المرسلة الى النبي</title><title ref="http://www.worldcat.org/oclc/1263680569">و
 24 ~~~~~

このようにTEIを利用してテキストデータに人名などの情報を付与するアノテーションを行っていけば、たとえば<persName>タグのついた部分を抽出するXPath検索²³が可能となる(図13)。テキストをWordファイルやExcelファイルに入力した場合、「ムハンマド محمد」といった特定の文字の検索しかできない。TEI/XMLファイルでアノテーションを付けることで、人名という区分でも検索できるようになる利点は大きいだろう。ただし、タグの途中でアラビア文字のテキストを改行してしまうと、正確な検索結果を出せないなどの注意点は残る。また、TEIのマークアップには指針²⁴が示されているものの、個々の研究目的に応じた柔軟な活用が認められているため、絶対の正解はない。タグの付け方についても検討の余地がある。

図13: <persName>タグの検索結果表示



8. RDFによるクーラーニーの師弟関係のデータ化

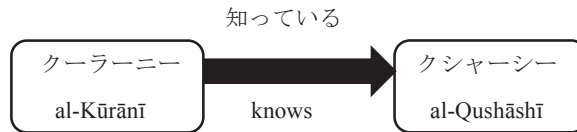
引き続き、同じくXMLファイルでRDFを用いたクーラーニーの師弟関係のデータ化を行いたい。RDFは、「主語、述語、目的語」の3要素(トリプルtriple)で関係性をデータ化する手法である。たとえば、クーラーニーの師匠はクシャーシーである。RDFで人間関係を記述する際に利用する

²³ 永崎研宣,「利活用演習: TEI準拠テキストの活用方法」『人文学のためのテキストデータ構築入門: TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて』一般財団法人人文情報学研究所監修, 石田友梨ほか編著(東京: 文学通信, 2022), 183-188.

²⁴ “TEI: Guidelines for Electronic Text Encoding and Interchange,” Text Encoding Initiative, last modified November 16, 2023, <https://www.tei-c.org/release/doc/tei-p5-doc/en/html/index.html>.

Friend of a Friend (FOAF) に基づき、主語は「クーラーニーal-Kūrānī」、述語は「知っている knows」、目的語は「クシャーシーal-Qushāshī」と表現できる (図14)。

図14：クーラーニーとクシャーシーの師弟関係の視覚化



この関係性をRDF/XMLファイルに入力し、グラフ化する。まずはOxygenでテンプレートファイル「Resource Description Framework [RDF]」を開く (図15)。

図15：Oxygen のResource Description Framework [RDF]テンプレート表示

```

1  <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
2  <rdf:RDF xml:lang="en"
3      xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#"
4      xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#">
5
6
7  </rdf:RDF>

```

2～3行目に「xmlns:foaf="http://xmlns.com/foaf/0.1/"」を追加し、FOAFを参照できる状態にした上で、以下のように入力する。

```

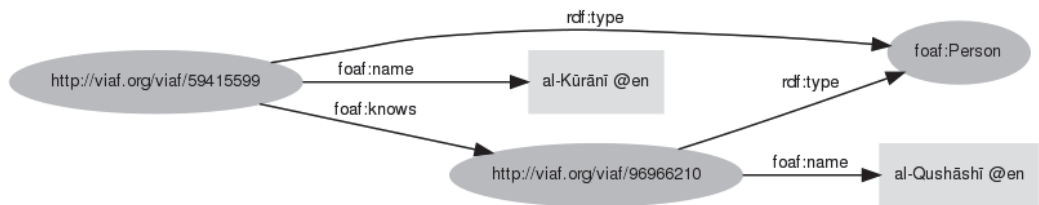
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<rdf:RDF xml:lang="en"
    xmlns:foaf="http://xmlns.com/foaf/0.1/"
    xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#"
    xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#">
  <foaf:Person rdf:about="http://viaf.org/viaf/59415599">
    <foaf:name>al-Kūrānī</foaf:name>
    <foaf:knows>
      <foaf:Person rdf:about="http://viaf.org/viaf/96966210">
        <foaf:name>al-Qushāshī</foaf:name>
      </foaf:Person>
    </foaf:knows>
  </foaf:Person>
</rdf:RDF>

```

```
</foaf:Person>
</rdf:RDF>
```

<foaf:Person>は人物を示すタグである。人物の同定のために、クーラーニーのVIAFのURIを属性rdf:aboutに入力する。これで、クーラーニーという人物について記述する準備ができた。<foaf:name>タグにグラフで表示する名前「al-Kūrānī」を記入し、<foaf:knows>タグを作る。<foaf:knows>の下に、クーラーニーが知る人物であるクシャーシーの<foaf:Person>と<foaf:name>タグを作成した。作成したRDF/XMLファイルをRDFグラフ用可視化ツール²⁵にかければ、図16を得られる。

図16：クーラーニーとクシャーシーの関係のRDFグラフ



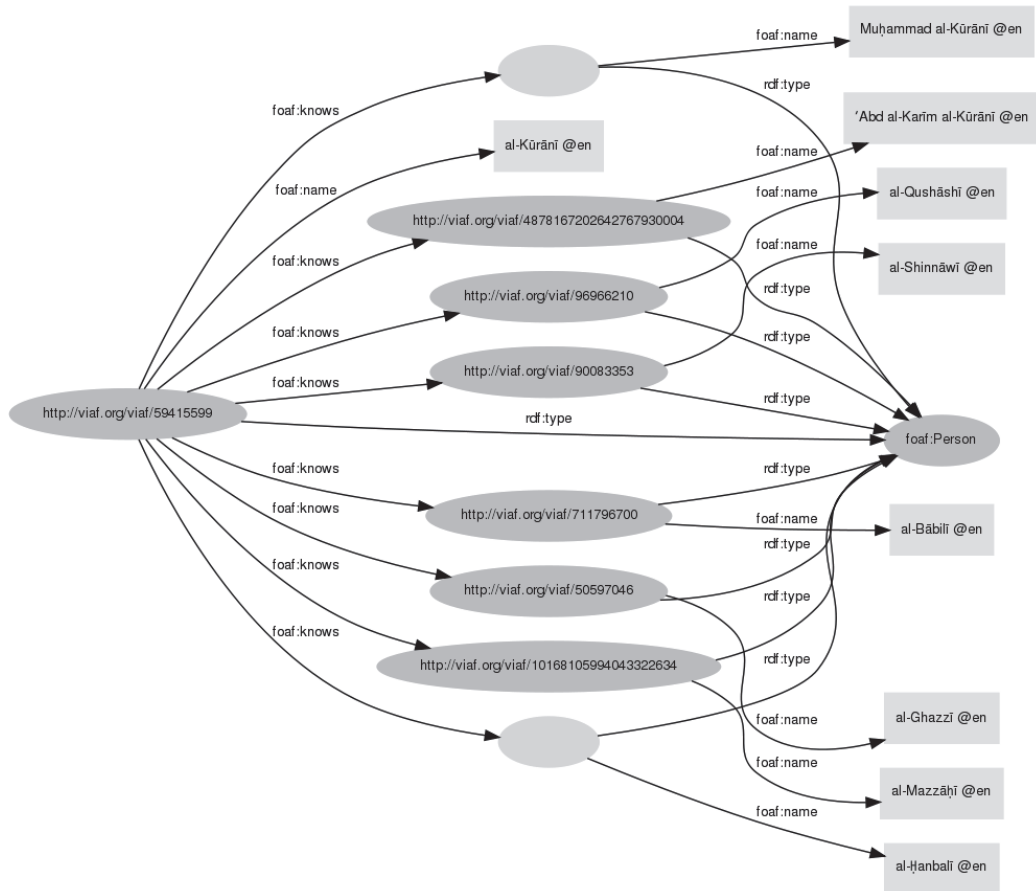
</foaf:knows>の下に<foaf:knows>を新しく作り、クシャーシーと同様の記述方法で、シンナーウィーなどの残りの師匠たちを入力していく。ムハンマド・クーラーニーのようにVIAFのIDがない場合は、rdf:about属性なしとした。

```
<foaf:knows>
  <foaf:Person rdf:about="http://viaf.org/viaf/90083353">
    <foaf:name>al-Shinnāwī</foaf:name>
  </foaf:Person>
</foaf:knows>
<foaf:knows>
  <foaf:Person>
    <foaf:name>Muḥammad al-Kūrānī</foaf:name>
  </foaf:Person>
</foaf:knows>
```

²⁵ “RDF グラフの視覚化 Turtle, Microdata, JSON-LD, RDF/XML, TriG,” The Web KANZAKI, last modified March 24, 2020, <https://www.kanzaki.com/works/2009/pub/graph-draw>.

ムラーディー『真珠の糸』で言及されているクーラーニーの師匠8名を入力し、グラフ化したものが図17である。人間関係の可視化自体は、ゲフィGephiやサイトスケープCytoscapeなどのソフトウェアでも行うことができる。しかし、RDFデータにすることにより、ウェブ上の情報と連結し、RDF用のコンピューター言語スパークルSPARQLでの高度な検索が可能になる。

図17：ムラーディー『真珠の糸』に基づくクーラーニーの師匠



9. おわりに

イスラーム教は、預言者ムハンマドがアッラーの言葉を伝えられたことから始まった。その内容は聖典クルアーンにまとめられ、信仰の礎となった。7世紀のうちには正典化されたクルアーンと比べ、預言者ムハンマドの言葉や行動をまとめたハディース集の成立は9世紀頃と遅れたが、クルアーンとハディースは今日のイスラーム教徒の行動規範の典拠となっている。現在まで続くハディースの重視が、17世紀頃から両聖都において形成していくイスラーム改革思想において育まれたものであるとするならば、その契機となったものは何であったか。イスラーム改革思想形成期に

おける師弟関係を調べ、当時思想の形成に大きな役割を果たしていたと思われる人物たちを突き止め、彼らの著作を読み解いていくことで、思想史の流れを明らかにすることができるだろう。本稿で試みたアラビア文字伝記資料からデータベース化は、その第一歩となる。

本稿では、TEIとRDFというデジタルヒューマニティーズ分野で一般的に使用される方法を用いたが、右から左に読むといったアラビア文字テキストの特性に起因する問題や、人名や書名と関連付けるための外部データに乏しいといった問題点も明らかになった。他の研究分野ではすでに充実したデータベースが作成されており、イスラーム研究においても同様のデータベースの構築が急がれる。その完成をただ待つのではなく、個人でも文献の読解とデータ化を進めて主体的に参加する準備を整えておくことが、デジタル化の進む今日の研究者に求められる姿勢かもしれない。

参考文献

（日本語）

一般財団法人人文情報学研究所監修，石田友梨ほか編著．『人文学のためのテキストデータ構築入門：

TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて』東京：文学通信，2022.

井筒俊彦．『イスラーム哲学の原像』東京：岩波書店，1980.

フランコ・モレッティ著，秋草俊一郎ほか訳．「スタイル株式会社—七千タイトルの省察（1740年から1850年の英国小説）」『遠読：＜世界文学システム＞への挑戦』，247-286. 東京：みすず書房，2016.

CyberLibrarian. 「RDF/XML構文仕様（改訂版）」最終更新2005年11月13日．<https://www.asahi-net.or.jp/~ax2s-kmtnt/internet/rdf/rdf-syntax-grammar.html>.

———. 「RDF 1.1 入門」 最終更新2014年3月18日．<https://www.asahi-net.or.jp/~ax2s-kmtnt/internet/rdf/NOTE-rdf11-primer-20140225.html>.

Open Archives Initiative Object Reuse and Exchange. 「OREユーザガイド—RDF/XMLによるリソースマップの実装」最終更新2008年10月17日．<https://www.nii.ac.jp/irp/archive/translation/oai-ore/1.0/rdfxml.htm>.

The Web KANZAKI. 「RDF/XML構文の簡単な説明」最終更新2003年9月7日．<https://kanzaki.com/docs/sw/rdf-xml.html>.

———. 「メタデータによる知人ネットワークの表現」最終更新2010年8月9日．<https://kanzaki.com/docs/sw/foaf.html>.

（英語）

Azra, Azyumardi. *The Origins of Islamic Reformism in Southeast Asia: Networks of Malay-Indonesian and Middle Eastern 'Ulamā' in the Seventeenth and Eighteenth Centuries.*

- Crows Nest NSW: Allen & Unwin; Honolulu: University of Hawai'i Press, 2004.
- Brickley, Dan, and Libby Miller. "FOAF Vocabulary Specification." Last modified August 18, 2004. <http://xmlns.com/foaf/0.1/>.
- Dumairieh, Naser. *Intellectual Life in the Hijāz before Wahhabism: Ibrāhīm al-Kūrānī's (d. 1101/1690) Theology of Sufism*. Leiden; Boston: Brill, 2022.
- Fathurahman, Oman. "Iṭḥāf al-dhakī by Ibrāhīm al-Kūrānī: A Commentary of Waḥdat al-Wujūd for Jāwī Audiences." *Archipel* 81 (2011): 177-198.
- OpenArabicPE. "OpenArabicPE_ODD." Last modified October 30, 2020. https://github.com/OpenArabicPE/OpenArabicPE_ODD.
- Romanov, Maxim G. "Computational Reading of Arabic Biographical Collections with Special Reference to Preaching in the Sunnī World (661–1300 CE)." PhD diss., University of Michigan, 2013. <https://hdl.handle.net/2027.42/102300>.
- Romanov, Maxim. "Islamic Urban Centers (661–1300 CE)." *al-Raqmiyyāt*. Last modified August 23, 2014. <https://maximromanov.github.io/2014/08-23.html>.
- Text Encoding Initiative. "TEI: Guidelines for Electronic Text Encoding and Interchange." Last modified November 16, 2023. <https://www.tei-c.org/release/doc/tei-p5-doc/en/html/index.html>.
- Voll, John. "Muḥammad Ḥayyā al-Sindī and Muḥammad ibn 'Abd al-Wahhāb: An Analysis of an Intellectual Group in Eighteenth-Century Madīna." *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 38, no. 1 (February 1975): 32–39. <https://doi.org/10.1017/S0041977X00047017>.
- Voll, John O. "Hadith Scholars and Tariqahs: An Ulama Group in the 18th Century Haramayn and their Impact in the Islamic World." *Journal of Asian and African Studies* 15, no. 3-4 (January 1980): 264-273. <https://doi.org/10.1163/156852180X00392>.

(アラビア語)

- al-Ḥamawī, al-'Allāma Muṣṭafā b. Fath Allāh. *Fawā'id al-irtihāl wa natā'ij al-safar fī akhbār al-qarn al-ḥādī 'ashar*, vol. 3. ed. 'Abd Allāh Muḥammad al-Kandarī. Damascus; Beirut: Dār al-Nawādir, 2011.
- al-Murādī, Abū al-Faḍl Muḥammad Khalīl b. 'Alī. *Silk al-durar fī a'yān al-qarn al-thānī 'ashar*. Cairo: Dār al-Kutub al-Islāmī, n.d.

(ペルシア語)

- al-Dihlawī, Shāh Walī Allāh. *Anfās al-'arīfīn*, Dehli: Maṭba' Aḥmadī, n.d.